www.kyowa－cycle.jp

電動アシスト自転車　取扱説明書

品番

YB20A

YF20B

LB20B

MB20A

MB26A

YB451A

YB20S

このたびは、製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

■取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

■保証書は、お買い上げ日・販売店名などの記入をして保管してください。

■製品を他人に譲渡される場合は、取扱説明書・保証書を一緒にお渡しください。

■お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、
　正しい乗り方をご指導ください。

■この自転車は買い物などの日常生活用として設計されています。
　新聞配達など、業務用としてご使用にならないでください。

■この自転車は一人乗り用として設計しています。
　お子様をお乗せになったり、二人以上でお乗りになることはしないでください。

■安全のためヘルメットの着用をお勧めします。

■万が一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお勧めします。

■必ず販売店で防犯登録の申請手続きを行ってください。(法令で義務付けられています)

＊イラストはイメージ図を使用しています。形状やデザインがお買上げ時の自転車とは異なる場合があります。

＊この取扱説明書は環境に配慮し紙ホッチキスで綴じています。

W15001

安全上の注意

⚠注意	軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容です。
⚠警告	死亡や重傷を負うおそれがある内容です。
⚠危険	死亡や重傷を負うおそれが大きい内容です。

⚠注意

■自転車は車道通行が原則です。

・歩道と車道の区別のある場所では、自転車は車道の左端に寄って通行しましょう。

■次のような場合は歩道通行ができます。

・自転車歩道通行可の標識等で指定されている場合。
・運転者が児童、幼児、70歳以上の場合。
・車道や交通の状況からみて、やむを得ない場合。

■最大積載質量を超える荷物を積載しない。

・ただし、自転車や取扱説明書等への積載条件の記載がある場合はそちらを守ってください。

■交差点では一時停止と安全確認を

・一時停止の標識を守り、広い道に出る場合は、徐行と安全確認を。
・信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

■次の様な運転はしない

・ヘッドフォンを使用しながらの運転。
・傘をさしながらの運転。
・携帯電話を使用しながらの運転。

■二人乗り、並進、飲酒運転は禁止です。

・二人乗りは禁止です。
・「並進可」の標識のある場所以外の並進は禁止です。
・飲酒運転は禁止です。

■自動車や子供に注意、安全を確認して乗りましょう。

・車の横を走る際、開くドアや人の飛び出しに注意しましょう。

■学校や公園が近くにある場合。

・子供の飛び出しに注意しましょう。

■交差点を通るとき。

・左折車に巻き込まれないように注意しましょう。

■アクロバット的な乗り方をしない。

・アクロバット的な乗り方は大変危険ですので絶対におやめください。

■夜間やトンネル内、視界の悪い時はライトを点灯しましょう。

・夜の点滅状態や無灯火での運転は交通違反です。
・暗いところではライトを点けて運転しましょう。

■雨・風・雷のひどいときは乗らない。

・バランスを崩し、転倒によるケガの恐れがあります。

■巻き込みやすい物を車輪やギアに近接させて乗らない(スカートやマフラーなど)

・車輪やギアに巻き込まれ、転倒によるケガの恐れがあります。

■急ブレーキ、急ハンドルは避ける。

・転倒や衝突によるケガの恐れがあります。特に下り坂や交差点近くで注意しましょう。

⚠警告

■ハブステップなどの突出物を装着しない。

・歩行者などに危害をおよぼす恐れがあります。

■リフレクターが破損したり汚れたりしたまま使用しないこと。

・事故発生によるケガの恐れがあります。

第１章　乗る前の点検・調整

１．自転車の制限事項

（１）幼児用座席について

・基本的に一人乗りの設計をしていますので、幼児用座席等は取り付けないでください。

（２）積載条件について

⚠警告

■ 乗る前にリアキャリア締付部の固定を確認する。

・荷物が落下し、ケガをする恐れがあります。

・リアキャリアに緩み・ガタ等の異常が確認された時は、販売店にご相談ください。

■荷物を積むときは、リアリフレクターが隠れないように積載する。

・事故によるケガの恐れがあります。

■積載条件から外れる荷物を積まない。

・リアキャリアやフレームが破損し、転倒によるケガの恐れがあります。

■荷物が確実に固定されていることを確認する。

・ひもやベルトを後車輪に巻き込んで、転倒によるケガの恐れがあります。

■積載条件を超えない荷物でも、通常より重い荷物を積載するときは、安全確保できる場所で練習してから運転しましょう。

・バランスを崩したり、ブレーキの効きが悪くなり転倒によるケガの恐れがあります。

■リアキャリアを改造してはいけません。

・部品が破損したり、外れて転倒によるケガの恐れがあります

積載条件

最大積載質量	
バスケット	リアキャリア
バスケットに収まる大きさ	幅:リアキャリアの幅プラス 10cm まで 長さ:リアキャリアの長さプラス 10cm まで 高さ:リアキャリアから 30cm まで

■荷物の運搬には、バスケットおよびリアキャリア以外は使用しないでください。

■最大積載質量以上は積まないでください。劣化度合いが大きくなったり、場合によってはバスケツト、リアキャリアフレームなどが破損する恐れがあります。

■容量の大きいバスケットやリアキャリアに交換しても最大積載質量は同じです。

（３）使用年齢範囲、体重制限、身長制限を守ること

２．乗る前の点検・調整について

⚠警告

（１）乗る前の点検

■まず体に合わせてください。

・各部の調整は販売店で調整を行ってください。(ハンドルの高さ、サドルの高さなど)

■ハンドルステムのはめ合わせ限界標識が見えるまであげないこと。

・ハンドルステムが折れて転倒によるケガの恐れがあります。

・ハンドルの高さ調整は、販売店にご相談ください。

■シートポストのはめ合わせ限界標識が見えるまであげないこと。

・シートポストが折れて転倒によるケガの恐れがあります。

■各部にガタやゆるみ、変形・ひび割れ等があるときは乗らない。

・ひび割れや変形を見つけたら、すぐに乗るのをやめて販売店で点検・交換をしてください

・フロントフォークは衝突などの強い衝撃を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒で強い衝撃が加わった後は、フロントフォークに変形やひび割れがないか点検してください。

・スポークが１本でも切れたまま使用し続けると、他のスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れたスポークは直ちに交換してください。

・ハンドルを締め付けてもガタ・ゆるみがある場合は、すぐに乗るのを止めて販売店で点検をしてください。

■乗る前の点検は必ず実施すること。

・前後ブレーキの効き、作動の点検をしてください。

・ハンドル・ハンドルステムが確実に固定されているか点検してください。

・前後車輪が確実に固定されているか点検してください。

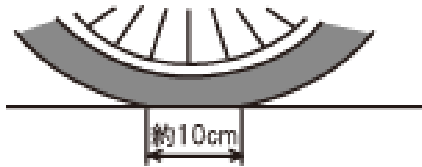
・前後タイヤの空気圧が適正か点検してください。

・ワイヤー類がたるんでいないか確認してください。

■点検で変形や曲がり、ひび割れなどの異常があったときは乗らない。

・事故や転倒によるケガの恐れがあります。

・異常があったときは販売店にご相談ください。

■空気圧の調整(前後のタイヤ)

・適正な空気圧は、自転車に乗った状態で接地部の長さが約 10cm 程度が適当です。

・圧カ計の付いたポンプでは 300kpa～450kPa(3.0kgf/c ㎡～4.5kgf/c ㎡)が適正です。

・長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。

・走行前にタイヤに異物が刺さってないか点検してください。パンクやタイヤ・リムを損傷させる原因になります。

・タイヤの空気圧は 300kpa(3.0kgf/c ㎡)未満では使用しないでください。タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。また、タイヤの空気圧が低い状態で縁石や段差の大きい歩道を走りますと、リムと縁石や段差にタイヤが挟まれてパンクする原因になります。

（２）バッテリーについて

■バッテリーの種類

・Kyowa のバッテリーは３６ｖ大容量、コンパクトな２４ｖリチウムイオンバッテリーを採用しています。

・このバッテリーにはメモリー効果がなく、継ぎ足し充電が可能です。

・バッテリーには互換性があり・容量タイプの変更が可能です。
ただし 36V と 24V の互換性はありません。また現在販売しているバッテリーは
３６ｖ6.6ah と　３６ｖ９.0ah および　２４ｖ5.8ah に集約しています。

■バッテリーの交換・廃棄

・お買い求めの販売店にご相談ください。

■交換時期の目安

・バッテリーは充放電を繰り返すと徐々に能力が低下し、走行距離が短くなります。
目安として３５０～４５０回の放充電で新品状態の約半分になり、使い方によっては交換が必要になります

・1 回の充電で、走行距離が著しく短くなった時が交換の時期です

・冬季や寒い環境下では、1 回の充電で走行できる距離が短くなります。これはバッテリーの特性上の問題で、気温が高くなると走行距離は元に戻ります。

■バッテリーの長期保管

・自転車からバッテリーを取り外し、満充電で保管してください。
周囲の温度が 0℃～40℃の場所で保管してください。

・バッテリーの劣化を防ぐ為に、3 ケ月に 1 回は充電してください。

・長期保管後に再使用する時は・予めバッテリー残量を確認し、不足している場合は充電してください。

⚠危険

＊危険ですので下記の行為は絶対にしないでください。

■バッテリーは電動アシスト自転車専用のバッテリーです､他の用途にご使用にならないでください。

■充電の際は専用充電器をご使用ください。

■衝撃を与えたり、分解・改造をしないでください。

■火のそばなど高温になる場所で充電・使用・保管しないでください。

⚠警告

■バッテリーに水を入れたり、水中に投下しないでください。

・端子部から水を入れるとショートして、発熱、発火の原因となります。

・バッテリー内部に明らかに水が浸入した場合は使用を止め、販売店で点検を受けてください。

■大雨等で自転車本体が水に浸かった場合は使用しないでください。

・本自転車は生活防水性能を備えていますが、大雨等によりバッテリー内部に水が入った場合は使用を止め、販売店で点検を受けてください。

・水没等でバッテリー、コントロールユニット、モーター内部に水が浸入した場合は保証対象外となります。

（3）充電をします

36V ボックスタイプの場合

■コントロールパネルのスイッチの電源を切ります。

・電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。

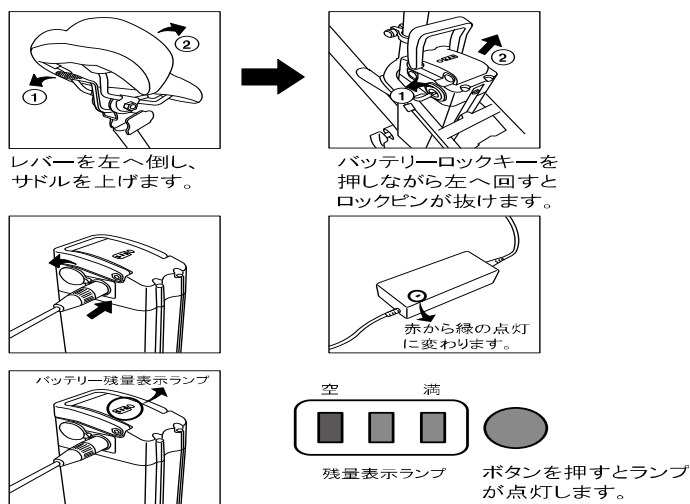
■サドルを上げ、バッテリーロックを外しバッテリーを引き上げます。

・走行中はキーを ON にしてください。

■バッテリーと充電器を接続します。

・電源プラグをコンセントに差し込み、充電器側のプラグをバッテリーに接続します。

・充電中は充電器のランプが赤く点灯しています、充電が終わると緑が点灯します。

■ バッテリー残量ランプを確認します。

⚠注意

① バッテリーを取り付ける前に、車体のバッテリーソケットの 4 本のねじがゆるんでいないか確かめてください。もしゆるんでいる場合は＋ドライバーで締め付けてください。

② バッテリーのガイドのゆるみがないか確認してください。
もしゆるみがある場合はガイドの止めねじを＋ドライバーで締め付けてください。

③ バッテリーを取り付けた場合、バッテリーにガタがある場合はフレームとバッテリーの間にゴム等を入れてガタつかないようにしてください。

24V ボトルタイプの場合

■コントロールパネルのスイッチの電源を切ります。

・電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。

■バッテリーのスイッチをＯＦＦにして、バッテリーキーロックを外し、バッテリーを引き抜きます。

・バッテリーのスイッチを ON にして、走行中はキーを抜いてください。

(バッテリーロックキーを左へ回すとロックが解除されます。)

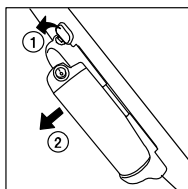
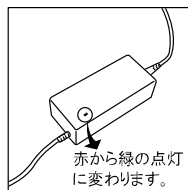
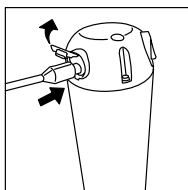
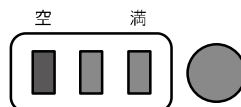
■バッテリーと充電器を接続します。

・電源プラグをコンセントに差し込み充電器側のプラグをバッテリーに接続します。

・充電中は充電器のランプが赤く点灯しています、充電が終わると緑が点灯します。

■バッテリー残量ランプを確認します。

⚠注意

バッテリーを取り付けたとき、必ずバッテリーロックキーを右に回してロックされたことを確認してキーを抜いてください。ロックを忘れますと走行中にバッテリーが外れて破損する場合があります。

バッテリーロックキーを左へ回すとロックが解除されます。

■電源が近くにある場合

・コンセント等が自転車の近くにある場合は、バッテリーを自転車から外さずに充電が可能です。

■バッテリーの満充電時間の目安

24v5.8ah	4 時間
36v6.0ah	5 時間
36v9.0ah	5 時間

上記充電時間を目安に充電器のコンセントをはずし、充電を終了してください。

⚠警告

■充電の際の注意事項

充電の際コンセント、充電器の差込口、およびバッテリーの差込口をしっかり奥まで差し込んでください。差込が不充分の場合、充電器が発熱し発火の原因となります。

また、充電が終了しましたら、充電器のコンセントを入れたままにしないで、必ず抜いてください。

・充電終了のままにしておきますとバッテェリーの寿命を短くしてしまいます。

満充電時間の目安で充電を終了しコンセントから抜くようにしてください。

（４）消耗品について

消耗品は走行距離や乗り方に応じて磨耗します。乗る前にチェックして磨り減っている場合は早めの交換をするようにしてください。

① 下記の消耗品は一般自転車の消耗品で同等のものと代替可能です。

タイヤ

チューブ

ブレーキブロック

チェーン

販売店で購入、交換取付けを行ってください。

② トルクセンサーのプラスティックカバーおよびカーボンブラシはセットで販売しています。

販売店にて取寄せ、交換取付けを行ってください。

・交換には特殊工具が必要です。

③ 消耗品以外の部品に関しましては、安全上販売店にご相談ください。

⚠注意

電動アシスト自転車を改造しないでください。部品強度の検査試験を経て製作しています。

部品強度の弱い部品の取付けは事故の元になります。

第２章　乗り方について

１．乗る際の注意事項

■ペダルを踏まず、ブレーキレバーを握らずに電源を入れる。

・コントロールパネルの電源ボタンを押し、次にアシスト切り替えボタンを押します。
　バッテリー残量ランプとアシストモードランプが点灯します。

・電源を入れる際は、ペダルに足を乗せず、ブレーキレバーを握らずに電源ボタンを押してください。トルクを検出しているか、ブレーキセンサーがブレーキ状態を検出している状態では保護回路が働き、電源を入れてもアシストしません。安全を確保するためこのような設計にしています。
　走行中も同じです。走行中に電源を切り、再度電源ボタンを押しても、トルクセンサーがトルクを感知しているか、ブレーキセンサーがブレーキングを感知している状態では表示ランプが点灯してもアシストしません。
　走行中に電源を入れる場合は、ペダルに足を置いてトルクがかからないようにして電源スイッチを入れてください。

・ハンドルとブレーキレバーをしっかり握ってから、サドルに腰かけペダルの上に足を置き、前後左右の安全を確認し、ブレーキレバーを放して、ペダルを踏んで発進します。
　(電動アシストが働きます)

・電源ボタンを押したときに手元スイッチのバッテリー残量ランプが点灯しない場合は、バッテリーの充電や、バッテリーの取付けが確実にできているかを確認してください。
・慣れるまではギヤを３か４に設定して発進してください。
・踏み始め、および　坂道を上がり終えた直後のアシスト力に注意してください。
・土踏まずやかかとでペダルをこがないでください。
・停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せないでください。
・３極コネクターが確実に刺さっているか確認してください。【写真①】

【写真1】

２．アシストモードの切り替えかた

■アシストの切り替えは電源が入っていればアシスト切り替えボタンを押すだけで切り替えができます。(モードランプが点灯します)

MODE設定	MODE
LOW	電池の消費が少ないモードです
MED	軽い上り坂に威力を発揮します
HIGH	急な上り坂や重い荷物を積んだ時などに

■けんけん乗りをしない。

・けんけん乗りとは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルのまたがる乗り方です。

・必ずサドルにまたがって発進してください。転倒してケガをする恐れがあります。

■ブレーキのかけかた

・先に後ブレーキをかけてから前ブレーキをかける。

・前後どちらかのブレーキをかけると、アシスト機能はOFFになります。

■停車時

・停車中は、前後どちらかのブレーキをかけ、ベダルに足を乗せないでください。誤って発進する恐れがあります。

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない。

・制動距離が長くなり、スリップしやすいため衝突や転倒によるケガの恐れがあります。

■前ブレーキだけ強くかけない。

・車輪がロックし、転倒してケガの恐れがあります。

■急ハンドル、急ブレーキは避ける。

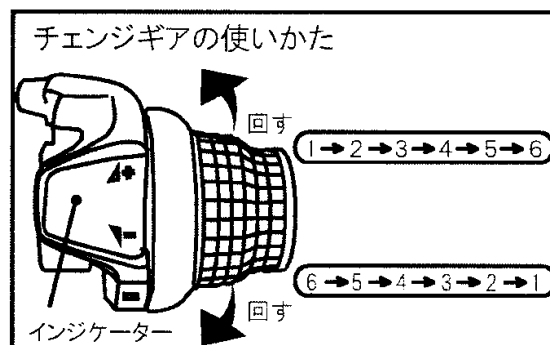
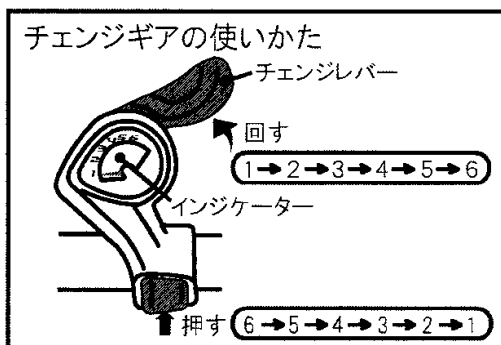
・急ハンドルや急ブレーキは転倒によるけがの恐れがあります。
注意して運転してください。

■歩道を走る場合は人に気をつけてスピードを出さない。

・歩道は人優先です。人との接触事故がないよう安全に注意を払い運転してください。

３．変速のしかた

■チェンジギアの使いかた

・チェンジレバーを回す。
チェンジレバーの番号が大きくなる程、ギヤ比が大きくなり早く走ります

■一度に何段も変速しない。

・一気に変速するとショックが大きく、転倒によるケガの恐れがあります。
　１段づつ変速してください。

■ペダルを踏み込みながら変速しない。

・変速操作に対し、実際のギアの切り替えが遅れ、バランスを崩し転倒によるケガの恐れがあります。

ご注意

電動アシスト自転車に初めてお乗りになる場合はチェンジレバーの番号を３で乗り出してください。慣れてきましたらギヤ比を大きくしてください。

４．乗ったあとの注意

■自転車から降りる前にコントロールパネルの電源を切る。

・コントロールパネルにある電源ボタンを押して電源を切る。

・バッテリー残量表示ランプとモードランプが消灯する。

■駐輪する。

・ブレーキを握ったまま、サドルから降りる。

・スタンドを立て、とめる、

■決められた場所に駐輪してください。

・駐輪するときは、他人に迷惑にならないよう決められた場所にとめましょう。

・盗難防止のため、必ず鍵をかけましょう。

■自転車放置禁止

・自転車の放置は、他人に迷惑をかけるばかりではなく、環境悪化の原因になります。

第３章　保管と廃棄について

保管・廃棄

■保管場所

・安定のよいところ。

・風通しがよく、湿気の少ないところ。

・雨つゆや直射日光が当たりにくいところ。

■廃棄するとき

・自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。

・使用済みの充電式バッテリーは、廃棄せず販売店にお持込いただくか、リサイクル協力店にご相談ください。(資源有効利用促進法に基づき、貴重な資源を守りましょう)

第４章　定期点検

１．定期点検

■定期点検は、必ず実施すること。

・異常や故障の発見がおくれ事故発生によるケガの恐れがあります。

・いつまでも安全にお乗りいただくために・ご使用後初めての初回(２ケ月以内)点検と
６ケ月毎の定期点検をお願いします。

■部品の交換は次の基準で実施する。

・ブレーキワイヤー、変速ワイヤーは異常がなくても２年に１回は交換する。

・タイヤは接地面(トレッド)の溝がなくなる前に交換する。

・ブレーキブロックは溝の残りが 1mm になる前に交換する。

・ブレーキブロックはリムに合った純正ブレーキブロックに交換する。
ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒によるケガの恐れがあります。

・カーボンブラシとプラスティックカバーは２０００ｋｍ走行目安でセット交換する。
すり減ってしまいますとアシストしなくなります。

■初回(2 ヶ月以内)の点検と整'備

・お買い上げ２ケ月位のご使用で・各部にネジのゆるみが出ることがあります。

・必ずお買い求めの販売店、または修理代行店で自転車安全整備士、自転車技師(自転車組立整備士)もしくは、それと同等の技術を有する者により点検、整備をお受けください。

■2 回目以障(6 ヶ月毎)の点検と整備。

・安全にご愛用頂くため、必ず継続してお受けください。

２．お手入れ

■日常のお手入れ

・乾いた布やブラシで泥や土、ほこりを落としてください。

・洗車はしないでください。

・がんこな汚れには、台所用洗剤(中性洗剤)を薄めてご使用ください。

■湿気の多い場所や海岸沿いでのお手入れ。

・錆びやすいので、お手入れの回数を多くしてください。

■ステンレス部品

・ステンレスは錆びにくい金属ですが、使用条件や環境によって錆びることがあります。
下記の点にご注意の上ご使用ください。

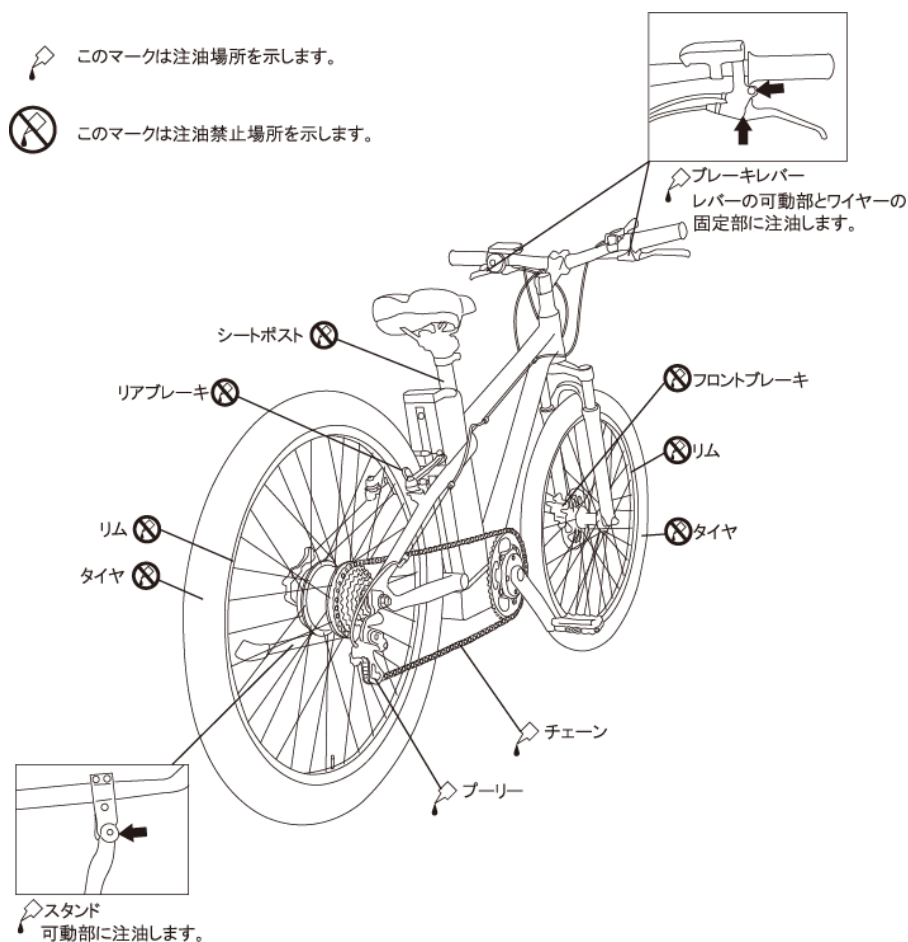
・付着した鉄粉などが錆びることによってステンレス自体も錆びるおそれがありますので、お手入れを頻繁に行ってください。

・ステンレスは塩素にも弱く、錆びることがあります。塩分や塩素系の洗浄剤が付着したときは乾いた後でも錆が発生しますので、水を含ませた布等でしっかりふき取ってふき取ってください。

⚠注意

・本電動アシスト自転車は生活防水性能を備えていますが、駆動ユニットやバッテリー、手元スイッチには直接圧力がかかるような洗車や、水をかけながらの洗車はしないでください。駆動ユニットやバッテリー内部に水が入った場合、故障の原因になる恐れがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水に浸かった場合は、直ちに使用をやめ販売店にご相談ください。
・長期間ご使用になるとバッテリーの取り外しが固くなる場合があります。これは車体接続端子の表面に汚れや酸化物が附着し・バッテリーとの滑りが悪くなっているためです。バッテリーの取り外しが固くなったときは、乾いた布などで車体側接続端子の汚れや酸化物を拭き取ってください。
・バッテリーケースの汚れは、水を含ませた布などで拭き取ってください。
・シンナー等の有機溶剤は使用しないでください。(塗装が剥げたり、樹脂部が浸食されます)
・サドルにワックスをかけないでください。(座ったとき衣服が汚れたり滑ります)
・雨天走行時にはリム側面のブレーキブロック接触面の砂や泥を拭き取ってください。

３．注油場所と注油禁止場所

■必ず自転車用油を使用してください。
■余分な油は乾いた布で拭き取ってください。

第５章　故障かなと思われたとき

（１）電源ボタンを押してもコントロールパネルのランプが点灯しない場合。

〈確認手順〉

・バッテリーは正しく装着されていますか。

　再度装着しなおしてみてください。

・バッテリーの電源スイッチは ON になっていますか。

　再度バッテリーのスイッチを OFF，ON してみてください。

・バッテリー自体の残量表示ランプを押すと残量表示ランプは点灯しますか。

　点灯しない場合は充電を行ってください。

・バッテリーを充電しても充電できない。

　バッテリーの寿命が考えられます。新しいバッテリーをご用意ください。

・コントロールパネルのＲＳケーブルが抜けかかっていませんか。

　ＲＳケーブルを差し込んでください。

上記いずれの手順でも解決できない場合、販売店にご相談ください。

コントロールパネル又は RS ケーブルの断線が考えられます。

（２）電源ボタンを押すと正常に（バッテリー残量表示ランプとモードランプの LOW が点灯します）点灯しますが、アシストしない場合。

〈確認手順〉

・電源ボタンを押すとき、ブレーキレバーを握っていませんか。またペダルに足をかけていませんか

　ブレーキセンサー、トルクセンサーの信号を検知しているとアシストしない仕様にしています。どちらもフリーの状態で再度電源を入れなおしてください。

上記の手順で解決できない場合、販売店にご相談ください。

トルクセンサーのプラスティックカバーおよびカーボンブラシの交換が必要です

（３）モードランプが点滅している（電気系統の故障を表示）場合

ＲＳケーブルまたはモーター接続の接続カプラーが抜けかかっていませんか

抜き差しを行ってみてください。

それでもモードランプが点滅している場合修理が必要のため販売店にご相談ください。

　モードランプ点滅時、おおよその問題箇所を特定できます。

　販売店にお問い合わせいただくとき、どのランプが点滅しているかお伝えください。

LOW ランプ点滅	モータ異常検出（電流）
LOW ランプ＆MED ランプ点滅	モータ異常検出（配線）
HIGH ランプ点滅	モータ異常検出（内部）
LOW ランプ＆HIGH ランプ点滅	ブレーキセンサー異常検出
LOW ランプ＆MED ランプ＆HIGH ランプ点滅	コントローラー異常検出 又は　RS ケーブル異常検出

www.kyowa-cycle.jp

お客様相談窓口

0120-045-838　（フリーダイヤル）

商品に関するお問い合わせ、相談窓口（営業時間　９：００～１７：００　土・日・祝日を除く）

■キョウワテクノ株式会社

広島市西区草津港１－９－１

TEL 082－501-4545　FAX 082－277-3734

■広島工場・物流センター

広島市安佐北区安佐町久地２５１－１９２

TEL 082－837-3323　FAX 082－837-3324

こんな症状はありませんか	■異常な音がする ■がたつきやゆるみ ■車輪の振れ ■ブレーキの効きが悪い

事故防止のため、必ず販売店に点検、整備を依頼してください。

点検･整備チェックリスト

レ:異常なし　A:調整･注油　△:修理　×:交換　C:掃除　一:装着されていない部品

点検箇所	点検項目	2ケ月	6ケ月	1年	2年	3年	4年	5年
フレーム	変形･破損･ひび割れはないか							
フロントフォーク	ヘッド･ハンガー小物にガタや摩耗はないか							
ハンドル	固定は確実か、高さ、ハンドルステムの挿入量は適正か							
	変形･破損はないか、軽く回転するか							
泥よけ	変形、取付は適正か							
キャリア	変形･ガタ･破損はないか							
車輪	固定は確実か、フレーム･フロントフォークに接触していないか							
	ハブからの異音はないか							
タイヤ	切傷、摩耗はないか。空気圧は適正か							
リム	変形、振れはないか							
スポーク	ゆるみ、折れ曲がり、破損はないか							
ハブ	ハブナットのゆるみ、玉押しのガタはないか							
ギアクランク	ギア板の振れ、ひび入り、曲がり、ガタはないか、締付は十分か							
ペダル	固定は確実か、取付部にバリはないか							
	軸の固定は正常か、変形、かしめ、ネジのゆるみ、ガタ、破損はないか							
ブレーキ	効き具合は適正か							
	レバーの引き代に余裕はあるか、ワイヤー類に錆やほつれはないか							
	ブレーキゴム類(ブレーキブロック、パッド、ライニング)の減りはないか							
変速機	作動は確実か							
チエーン	油切れ、たるみはないか、ギアとの噛み合わせは適正か							
サドル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か							
	取付位置、ガタ、破損はないか							
ライト	点灯、照射は正常か、破損はないか、							
リフレクター	汚れ･ガタ･破損はないか							
スタンド	作動は正常か、ガタ･変形･破損はないか							
ベル	作動は正常か、ガタ･変形･ゆるみはないか、よく鳴るか							
錠	作動は正常か、変形･ゆるみはないか							
その他	各部のネジのゆるみ、破損はないか							
注油箇所	チェーン･ワイヤー･変速機･ブレーキレバー･スタンドの支点							
バッテリー	固定は確実か、ガタはないか、							
	鍵を回して確実にロックしているか							
ケーブル	抜けはないか、変形していないか							
	破れはないか							
実施店	実施者氏名	実施日	年 /	年 /	年 /	年 /	年 /	年 /	年 /
保証書に書かれている品番および車体番号を転記してください 品番	車体番号	確認印							